

えひめ農林水産業振興プラン2021（農業編）の進捗概要（令和5年度）

【基本施策① えひめ農業を担う「人づくり」

～えひめ農業を支える担い手を確保・育成します～

- 令和5年度は、「えひめ農林水産アンバサダー」や「えひめ農林水産レポーター」の新設による魅力発信、愛媛農業未来カレッジ（愛媛県立農業大学校）でDXに係るキャリアアップ講座を新設するなど、担い手をさらに確保するべく様々な取り組みを実施し、新規就農者（40歳未満：自営＋法人）を112人確保しました。
- 農業・林業・水産業に従事する20～60代の女性でつくる「一次産業女子ネットワーク・さくらひめ」のメンバーが145名に増加し（令和4年度から11名増加）、都市圏の若手女性を対象に体験ツアーや相談会の実施や、SNS等を活用した農業の魅力発信などを支援しました。
- 農業の経営発展に向けて、17市町・56経営体の認定農業者に対し、トラクターやコンバインなどの機械・施設整備を支援しました。
- 外国人材の受け入れでは、スリランカ政府と覚書を締結するなど、スリランカ人材受け入れモデルの確立を図りました。また、他産業に農業アルバイトや有償ボランティアへの参加を呼びかけ、収穫期に延べ28,275人役の労働力を確保しました。今後も引き続き、更なる労働力の確保に努めます。

【基本施策② えひめ農業で輝く「モノづくり」

～競争力の高いえひめ農業の生産力・販売力を磨きます～

- 多様な担い手の規模拡大・所得向上につながる生産基盤整備を推進するため、災害に強く生産性の高い園地に再編する「再編整備・再編復旧」を計24地区で推進しました。
- 農業水利施設の長寿命化と機能回復を推進するため、豪雨時に湛水被害を防止する排水機など、計30地区の基幹的水利施設で保全対策工事を実施しました。
- 令和3年産の柑橘収穫量は全国2位であるものの、柑橘の栽培品目数は約40種類を誇り全国1位となっていますが、令和5年度も、「柑橘王国えひめ」を支える果樹産地の更なる発展を目指し、高収益化に必要な機械・施設整備の支援を計16地区で実施するなど、柑橘王国として確固たる地位を維持すべく各種施策を推進しました。
- 県オリジナル品種「ひめの凜」の栽培者は年々増加し、栽培面積も約700haまで拡大しているなか、2JAで共同乾燥施設を整備し、首都圏の消費者を対象に試食販売やキャンペーン活動を行うなど、生産体制の構築やブランディングを一体的に実施しました。
- 収益性の向上に向けた野菜の生産体制強化に向け、いちごやさといも、ブロッコリーについて計9産地で、規模拡大や高品質化に必要な機械・施設整備を支援しました。
- 愛媛の魅力を世界に広げるため、デジタルを活用したPRと連動させながら輸出力を強化し、県が関与した県産かんきつの輸出量は過去最大の169.3トン（前年度比：24%増）に増加しました。
- ドローンをはじめとしたスマート農業技術を活用し、防除作業の効率化や高精度化を図るとともに、有害鳥獣の捕獲や、酪農経営の高収益化と省力化を可能とする「えひめ型酪農システム」の確立に向けた試験、実証を行いました。
- 動植物防疫措置の強化に取り組むため、高病原性鳥インフルエンザ防疫研修会を開催し、豚熱の発生防止に向け、91戸の農家が飼養する豚・イノシシに予防的ワクチンを接種しました。

【基本施策③ えひめ農業を支える「地域づくり」

～競争力の高いえひめ農業の生産力・販売力を磨きます～

- 学校給食への県産食材利用促進を目指し、県教育委員会や市町と連携したマッチングを実施するとともに、幼少期の子どもたちの料理体験を開催し、食育を推進しました。
- 住民交流や魅力発信など地域の活性化につながる地域住民主体の取組を促進し、地域が目指す将来像の実現に向けた道筋等をまとめた「ふるさと保全計画」を7地区、策定しました。
- 荒廃農地の発生防止や再利用につながる取り組みを実施し、担い手への農地集積率が37.4%に向上するとともに、地域計画の策定に向けた協議を進める地域も増えてきており、今後も地域の実情に合った荒廃農地対策を実施します
- 農村の防災・減災対策を推進するため、地すべり対策・保全（14地区）や、ため池整備（50地区）、ため池地震対策（25地区）などを実施しました。